

# 心理曲線法による読解過程の分析

足利市立大月小学校 赤坂光三

## 1 研究の目的

### (1) 研究の動機

全国学力調査や標準学力調査結果の分析を見てみると、物語文読解の中で、心情・情景を読みとる力が他に比較し劣っている。県としても追跡調査でとりあげ、その問題点を究明した。

昭和42年度実施の「問題点解明のための追跡調査」では、従来の学力調査にはなかった、心情の変化を読みとる力を見る設問をしている。その結果、正答は非常に低率であった。即ち、

- ① 部分的に読みとって反応する傾向がある。
- ② 心情の読みとりでは、中心人物の動き、その変化等を関連づけ因果関係を理解することが困難である。ということを指摘している。私もかねがねこの問題について関心をもっていたので、研究してみようと思った。

### (2) 研究のねらい

どんな読解力のない児童でも、物語を読んで情緒的の反応を示さないものはないし、登場人物について共感や反発、好ききらいを感じないものはない。教科書にかき込みをさせると、児童は種々様々の反応を示す。これらの反応は、書き手の意図や主題を読みとらえる読みの最初の段階でだいたいにしてほしい。まさに感想をもつ読みである。即ち、登場人物の心情・心情の変化をきめ細かに読みとる精緻な読解に通ずるものである。

登場人物の心情や、心情の変化を読みとるということは、かなり高度な技能のように思われる。従って読解力のない児童は、このような学習になるとほとんど参加できず口をとぎしてしまう。何らかの打開策はないものだろうか。

物語文における登場人物の心情や、心情の変化を読みとるための一方法—心理曲線法—を研究し、少しでもこの面の力を伸ばしてほしい。

## 2 研究の方法

### (1) 心理曲線法とは

文章を読んで主題を読みとる、感想をもつ、心情や心情の変化、推移、屈折などの読みとりは、高度な読みとりといえよう。しかし各人各様の情緒的の反応を示していることは前述の通りである。それにもかかわらず、こういう学習活動になると不活発になるのはどういいうわけであろうか。それは、登場人物についての共感や反発、好ききらいなどの情緒的の反応を表現することばに苦しむためではなかるうか。そこでこれらの反応を表現する方法として、グラフ化したのが心理曲線法である。

### (2) 適用場面と方法

- ① 主人公や登場人物の心情や心情の動き、変化などを読みとる。
- ② 文章を読んでいく時の自分の感動、感情をあらわす。

③ 書き手の意図や、文章の主題を読みとる。

④ 感想をもつ。

読みとりの視点を与え、グラフ化していく。

(3) 具体的学習活動

学 習 活 動	読 み の 視 点
<ul style="list-style-type: none"><li>登場人物の気持ちの動きを読みとる。</li><li>読み手の情緒的反応をグラフであらわす。</li><li>作者の感情をグラフであらわす。</li><li>主題のよくあらわれているところ、弱いところをグラフであらわす。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>安心と心配 — 幸と不幸など</li><li>安心と心配 — 共感と反発など</li><li>安心と心配 — 緊張と弛緩など</li><li>主題にせまる主要語句</li></ul>

上記のようないろいろな活動があるが、ここでは、登場人物の気持ちや気持ちの動きを読みとることの実践例をあげることにする。

(4) 指導過程について

一般に次のような手順で指導する。

① 文脈のすじや転換を項目的におさえる。(会話でおさえる場合もある。)

② すじの項目ごとに、心情の動きをグラフであらわす。

作業用紙を与え、まず個人作業で行なう。

③ 個人作業をもとにしてグループで話し合い、グループとしてのグラフをまとめる。

④ グループでまとめたグラフをもとに、全体で話し合う。その際曲線差の大ききなところについて重点的に討議する。また、曲線の転換点も重要な討議の個所である。

⑤ もう一度個人作業にもどり、グラフをかく。

⑥ 発展的な学習に導く。感想をかく。

この方法は、上下の二次元的な関係でグラフをかいていく。読み手の心理から言えば、登場人物の心理の展開だけでなく、読み手の心に強くひびいたところ、共感、反発、好き嫌いなどの情緒的反応がある。これらの反応をあらわすために、立体的な構造としてのグラフ化が重要ではないだろうか。

このためには、ただ平板的にグラフをかくのではなく、同感したところ、身につまされるところに※をつけるとか、グラフの下に自由な感想をかきこませたりして、より立体的なものにするよう心がける必要がある。

(5) 指導事例〔1〕

① 教材名 物語を読む かえる (東書5年)

- ② 目 標
- ・場面のようにすや登場人物の気持ちの動きを読みとれるようにする。
  - ・表現の細部に気をつけ、すぐれた描写を味わうことができるようにする。
  - ・よい表現を味わうために朗読できるようにする。

③ 文章構成

(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふたりでるす番</li> </ul> 第1段 <ul style="list-style-type: none"> <li>土間にかえるを見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よりえの気持ちを中心に叙述しながら、それと絶えず比較するかたちで、兄の行動や心情の描写をうきほりしようとしている。</li> </ul>
	第2段・見知らぬ人がきて、薬がないかと言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1段とは逆に、兄が中心にかかっている。いわば兄の気持ちから、妹のようすを逆光線で見るとように想像させようとしている。</li> </ul>
	第3段・母が帰ってくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>母が帰ってからのよりえの行動。</li> </ul>
(2)	第4段 <ul style="list-style-type: none"> <li>男の人がお礼にくる。</li> <li>ふたたびかえるが現われる。</li> </ul>	

④ 登場人物の気持ちの動きを読みとること。

人物の心情の表現は、

- ① 心情そのものを直接的に叙述する。
- ㊦ 心情のこもったことばを人物に語らせる。
- ㊧ 人物の心情を推測させるような行動、情景を描写する。

などの方法がある。この作品には、それらの手法のすべてが各所で使われている。したがって一見なにげなくかかれた部分にも、十分注意を向けさせて読みとらせるようにしたい。

① 直接心情が叙述されている部分(例)

- なんだかさびしいばんでした。
- つまらなそうに庭先へでて…………
- よりえは…………おこってしまいました。

㊦ 会話や独語に心情がこめられている部分(例)

- 「自転車へ乗って行ったんでしょ。」
- 「ああ。」

㊧ 登場人物の行動に心情がこめられている部分(例)

- 庭にならべてあるざるや、バケツをひい、ふう、みい、よおと数えてみました。
- びっくりするほど健ちゃんのかたをたたいて喜びました。

⑤ 指導計画 8時間扱い

1. 単元を概観し、学習の目あてや方法について考え学習計画をたてる。…………(1)
2. 「かえる」の全文を読み味わう。……………心理曲線法 ……………(3)  
場面ごとに行動、心情を読みとる。
3. 読みとったことを発表し合い、主題を確かめる。……………(1)
4. 感想文を書き、それについて話し合う。……………(2)
5. 練習・テストをする。……………(1)



⑦ 作業用紙へのかきこみ方

① 読みとりの視点を与える。

+ (プラス) ……安心 (ほっとする, 楽しい)

0 (ゼロ) ……普通の気持ち

- (マイナス) ……不安 (しんぱい, さびしい)

② 読みの視点にそって5段階上に曲線グラフをかく。視点の度合の強弱により高低をつける。

⑧ 指導結果についての考察

登場人物の気持ちや、その動きが直接叙述されている部分については、児童はたやすく指摘し、また曲線の差も少ない。しかし動作、情景、状況描写から気持ちや、その動きなどを読みとることは、なかなかむずかしいようである。このような内容を読みとるということは、児童が表現されている内容を、今までの経験を思い起こしたり、想像力をはたらかせたりして、自分の頭にイメージをえがく、即ちイメージ化を通じてこそ成立するものであろう。

① 会話や独語について

会話、一語を考え反応している傾向が強い。「このことばはどんな気持ちからいったのか。」「どんな状態の時いったのか。」などの発問によって注意を喚起し、前後の表現をよくおさえ文脈に即して類推させることがたいせつである。

② 行動から気持ちを読みとることについて

よりえの気持ちや、その動きにくらべて兄健ちゃんの気持ちは表面的にでないのとらえ方が困難であった。「なぜこんなことをしたのでしょうか。」「その時どんな気持ちだったろうか。」「みなさんもこんなことをしたことがありますか。その時はどんな気持ちだったでしょう。」などの発問によって、その行動の意味するところをじっくり考えさせたい。特に兄の健ちゃんの行動には、妹に対するいたわりや、母に対する思いやりの態度のあることに注目させたい。

③ 情景の描写と気持ちの読みとりとの関係について

とらえ方に差が見られる。経験の有無、想像力の差などによってであろう。

叙情的表現 幻想的な表現

西の空で、白いようないなびかりがしています。

こんな暗いばんは、きつとお月さまが病気のだろう……

きりのような水しぶき……

青葉はもえるように……

このような情景を思いうかべさせ、気持ちを考えることがだいじである。

(6) 指導事例〔Ⅱ〕

① 教材名 大きなしらかば (東書5年)

- ② 目 標
- 登場人物の気持ちの動きを読みとれるようにする。
  - 主題を考えながら読めるようにする。
  - 自分の読書のしかたを反省し、その向上を図ることができるようにする。

### ③ 単元設定の理由

この期になると、児童は相当程度の高い作品を読むようになり、その読み方も話のすじのおもしろさを追うという表面的なものから抜け出して、内容について深く考えながら読むことができるようになる。この単元は、そうした傾向をいっそう助長し、主題を考える力や、心理の動きを読みとる力をさらに高めようとして設定したもので、私の研究主題に適した単元といえる。

### ④ 主 題

「大きなしらかば」の木に、主人公アリョーンヤが立ち向かう（登る）が、それがたいへん危険なものになってしまった。その危険な状況からの脱出に、母親が実に理性的な指導と助言を与えた。つまり主人公の無謀な行為は、母親の理性的愛情によってことなきを得、主人公自身も、より深く母親の愛情を感じ大きく成長をとげた。

### ⑤ 文章構成

この物語は、それぞれ一章ごとに一つの場面を描いているが、全体を通して、母親と主人公アリョーンヤの行動が、事件の進行にそった時間的順序で描かれている。したがって客観的描写が多く、またどの場面でも、人物の心のからみ合いが会話を軸として展開しているのが特色である。

### ⑥ 指導計画 11時間扱い

1. 全文を見通し、感想をまとめる。（読み手の感情をグラフにあらわす）……………(1)
  2. 学習の中心を決め、計画を立てる。……………(1)
  3. 各場面における登場人物の気持ちの動きを読みとる。……………(6)  
（登場人物の気持ちの動きをグラフにあらわす）
  4. 感想をまとめて発表し話し合う。……………(1)
  5. 読書指導……………(1)
  6. 練習とテスト……………(1)
- ⑦ 登場人物の気持ちの動きをグラフにあらわす。  
登場人物の会話、独語を中心に、気持ちの動きをとらえる。



㊤ 反応分析

初めて読んだ時の登場人物の気持ちをグラフにあらわし、その差の大きかったところについて話し合い、再度かいた。

・アリオージャの気持ち

1 回 目	2 回 目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボロージャとのやりとりの場面はほとんど⊖に反応している。</li> <li>・「おうい。」「おうい。」については⊕に反応している。</li> <li>・しらかばの木の上にいる時の気持ち、おりてくる場面では⊕に反応している児童が多い。</li> <li>・しらかばからおりられて、おかあさんが泣くのを見た場面は、反応が⊕と⊖に分散した。こういう場面は指導の重点とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボロージャとのやりとりの場面で⊕への反応者がいなくなった。</li> <li>・「おうい。」「おうい。」については、並列的(恐怖、歓喜の両面があること)の指導が必要)</li> <li>・「登るときより、おりるほうがむずかしい。」といった母のことは、べっそうの人のことは、おりる時のようすを話し合った結果⊖の反応もでてきた。</li> <li>・おりられた時は、ほっとしただろうが、おかあさんが泣くのを見た時は、かなしかつたろう。⊕→⊖</li> </ul>

・母親の気持ち

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボロージャから、知らせを聞いた時は大変おどろいたが、木の上のアリオージャをおろそうと努力した時は、それほど心配ではなかった。母親のことは「どり、アリオージャ。上の方……。」のやさしいことばを、その通り受けとめている。</li> <li>・アリオージャが、木からやっとおりられた。そして母親が泣く。この場面では⊕と⊖に分散した。 アリオージャの気持ちとからめて、指導の重点としてあげられる。 (友だちとの比較において疑問をもつ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より⊖に多く反応している。話し合いの文(例)</li> <li>・おかあさんの顔は、まるでしらかばの幹と同じくらいに白くなりました。「こんなにもおどろいたおかあさんがなぜやさしく声をかけたのか。」を問題とした。⊖への反応が多くなった。 「おかあさんが泣いたのは、どうしてか。」について話し合う。 ⊖→⊕へと反応が変わってきたが、まだ、部分的読みからの反応と思われる。</li> <li>・おかあさん、アリオージャの気持ちについては、もっと全文を見通して読ませなければならぬ。</li> </ul>
--	--

なお紙面のつごうで略したが、前記の作業用紙の下へ思ったことを書かせると、どうして上のようなグラフ反応をしたかがわかり、指導の手がかりとなる。個人の反応、思ったことをだいにし、時と場に応じてグループ、または全体にて話し合い、最終的に人物の気持ちや動きをとらえさせることがたいせつである。



アリオージャの気持ちの流れ	母の気持ちの流れ
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボロージャをうらやむ気持ち</li> <li>↓</li> <li>• ひとりで木に登って行く気持ち</li> <li>↓</li> <li>• やっと登りついてめまいを感じた時の気持ち</li> <li>↓</li> <li>• 母から声をかけられてびっくりした気持ち</li> <li>↓</li> <li>• 母を信頼しながらおる時の気持ち</li> <li>↓</li> <li>• 母の泣くのを見た時の気持ち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボロージャから知らせをきいた時のおどろき</li> <li>↓</li> <li>• 必死な気持ちとおちついた言動との関係、ことばの奥にひめられた気持ち</li> <li>↓</li> <li>• 安心した気持ち→泣く</li> <li>↓</li> <li>• 他人と母親の気持ちとの対比</li> </ul>

心理曲線には直接あらわすことのできない心情ではあるが、この曲線をもとにして、複雑な心理を読みとらせたい。

#### (7) 研究結果の考察

##### ① 心理曲線法についての効果

- ① 感じている反応を表現しやすい。
- ② 全部の児童が、その能力に応じた読みとり方をして反応を表現することができる。
- ③ 読み手の感情と登場人物の心情とが区別できるようになる。
- ④ グラフをかくことによつて、どの文を読んだの反応かがはっきり言えるようになる。
- ⑤ 相互批正の資料に便利である。
- ⑥ 読みとり方の一方法がわかり、自主的学習ができるようになる。
- ⑦ 部分的な読みから、全体的関連的な読みへと変わってくる。
- ⑧ 個人の反応、考え方がはっきりあらわれるので、学習の個別化に役立つ。

##### ② 問題点

- ① グラフの書き方をよく理解させて用いないと、危険がともなり。心理や心情は複雑なものであつて、本来的には一つの高さ低さにきめることはできない。

たとえば、「大きなしらかば」での、アリオージャの不安、おどろき、と母親の不安、おどろきとは質的にちがう。

これらを一つの平面上に表現するところに問題あり。したがつて質的ちがひについては、じゅうぶん話し合う必要がある。

- ② この方法は、はじめに読みとりの視点を与える。これは一種の制約となる。物語の読みとりは、もつと複雑で想像豊か、多彩で個性的であつてよい。であるから、グラフのみにこだわらず、個性的感想発表を行なわせることを考えるべきである。

- ③ ⊕と⊖の内包する気持ちについて

1. 単純化(不安—安心)した場合、そのほかの複雑な心情をどうおさえるか。
2. 複雑化(心配、さびしい、かなしい—安心、よろこぶ、楽しい、うれしい)した場合の表現方法がむずかしい。

### ③ 結 論

心理曲線法は、高さの度合いを決定することではなく、それをきっかけとして全児童に質的な心情の読みとりを行なわせ、また読みとった根拠を深めようとするものである。したがって高さの度合いには、はばをもたせる必要がある。

重要なことは、グラフにあらわした根拠を言わせることである。そして根拠について考え合うことである。少なくとも今まで根拠なしにバクセンと読んでいた児童が一言一句をもだいにしにして読もうという構えができてきたように思い、自己満足している。

### 評

物語的文章の読解鑑賞指導においては、とかく学習者の感性に訴える点で多分に主観的な読みとりをたいせつにしなければならないことは言うまでもない。しかし反面、主観的情意的な傾向を重んじることから指導過程においてそれらの反応を正しくとらえ、次の指導を導く手だてを考えなければならなくなる。赤坂先生の研究はこの情意的な子どもの反応をより正しくとらえる手だてとして心理曲線法による読解過程の分析をされた点国語科指導の科学化、近代化を図るうえでも注目に価するものがある。とかく国語科の指導はばくぜんとしていて評価、診断する上でも、客観化する方法がむずかしいところがある。この研究は①感じている反応を表現しやすいこと、②読み手の感情と登場人物とが区別できるようになる。③グラフを書くことによって反応がはっきり言えるようになる。④読みとりかたの一方法がわかり自主的学習ができるようになる。⑤部分的な読みから全体的関連的な読みになる等価値ある要素を有しているため、特に小学校中学年以上の物語的文章の読解指導にこれを位置づけることによって効率ある学習の展開ができるものと予想せられる。